

大階段・エントランスホール

学校の中心に配置した大階段は単なる移動手段としての利用だけではなく、生徒の学校生活の魅力を引き出すきっかけを生み出す空間として計画します。

1. 繋がるコミュニティ

大階段は、生徒たちが自然と集まり、交流する場となります。休み時間には談笑や勉強の場として、放課後は部活動の集場所として、様々な場面で活躍します。学年やクラスを超えた交流が生まれ、学校生活を豊かにしてくれます。

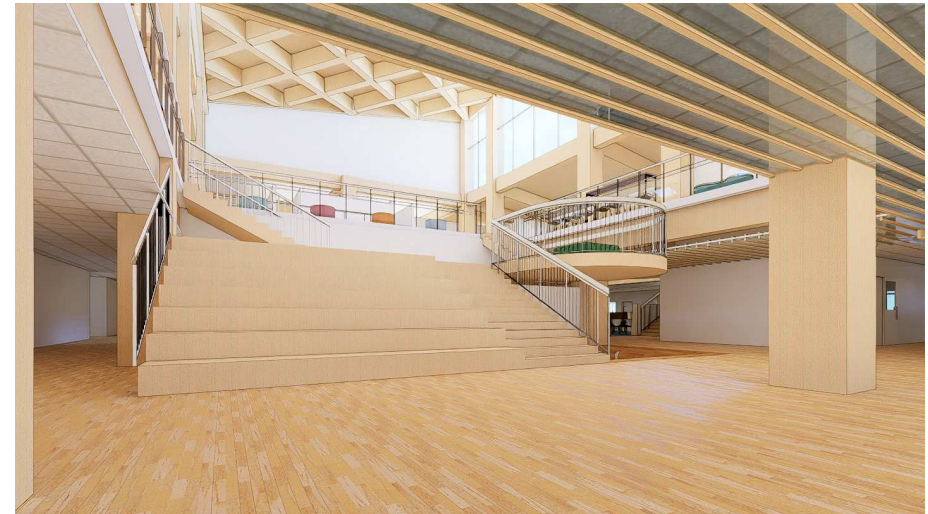
2. 多様なイベントの舞台

入学式や卒業式、合唱コンクールなど、学校行事の重要な舞台としても大階段は活用されます。階段に並ぶ生徒たちの姿は、学校全体の一体感を生み出すとともに、思い出深いシーンとして心に刻まれます。

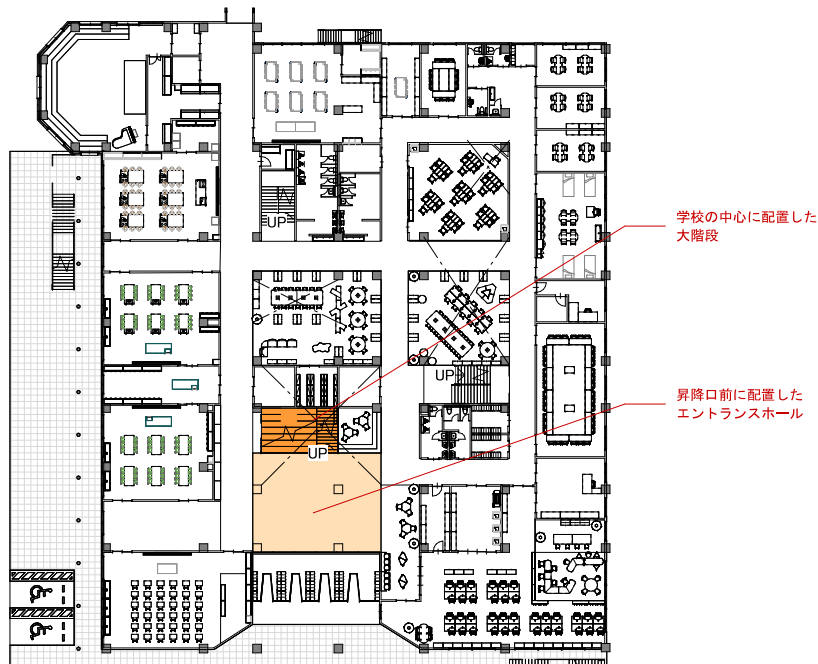
3. 創造性を育む空間

装飾や演出によって、大階段は様々な表情を見せます。季節の装飾や生徒たちの作品展示など、創造性を発揮できる場としても活用できます。

このように、中学校における大階段は機能性だけでなく、コミュニティ形成やイベント利用、創造性や個性を表現する場、成長を感じられる場所など、様々な魅力を備える空間として計画します。



エントランスホールから見た大階段



2階廊下から見た大階段

2階中央吹き抜け

中学校における大きな吹き抜け空間は、単に空間を広く見せるだけでなく、様々な効果をもたらします。

1. 明るく開放的な空間

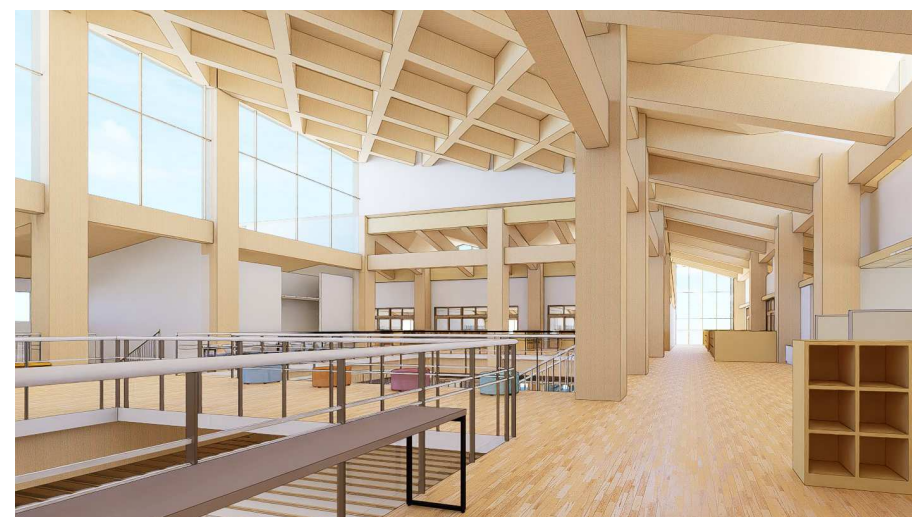
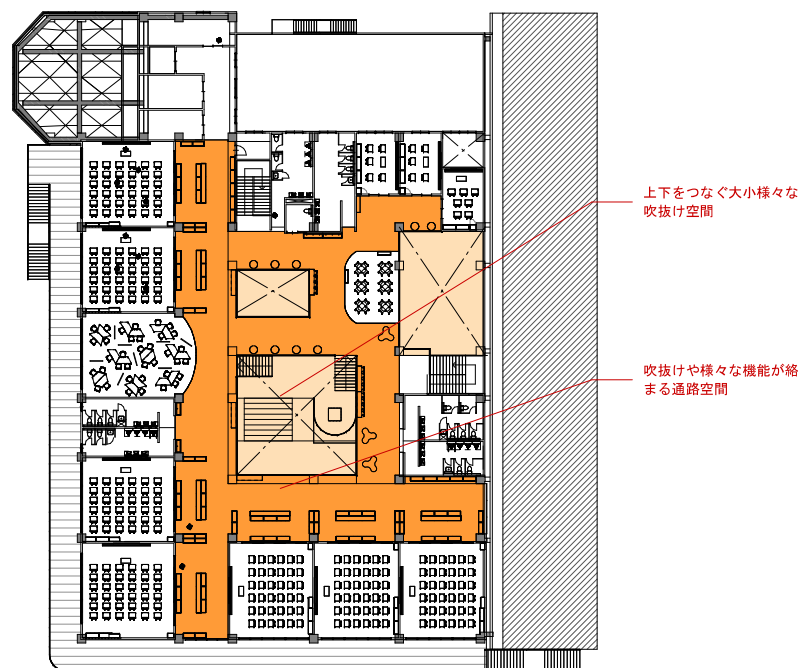
吹き抜け空間は自然光を取り込み、校舎全体を明るく開放的な雰囲気にします。閉塞感を感じさせないことにより、生徒の多様なアクティビティを生み出します。

2. 学年を超えた交流の場

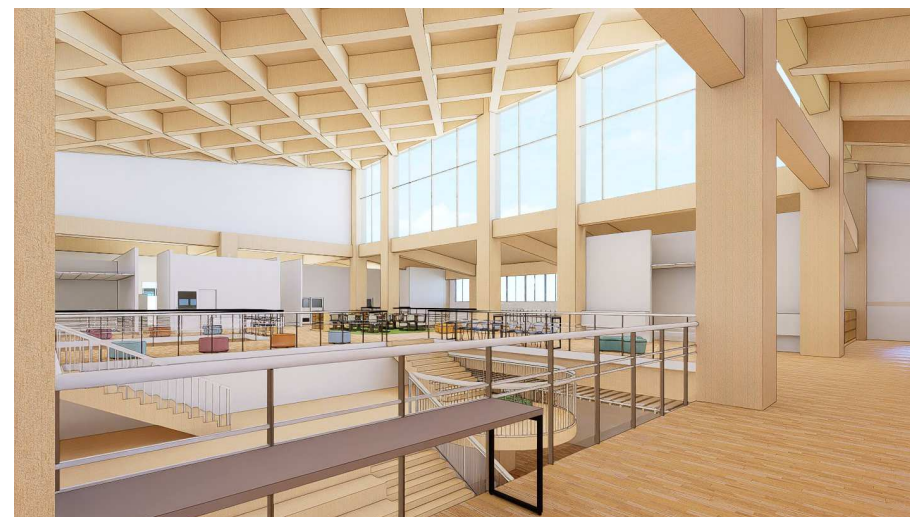
吹き抜け空間は、学年を超えた生徒たちの交流を促進する場となります。1階から2階まで見渡せる空間は、視覚的なつながりを生み出し、生徒たちのコミュニケーションを活性化し、学校全体で一体感を育むことができます。

3. 大小さまざまな吹き抜け空間

大小さまざまな吹き抜け空間を配置することで、生徒たちが自然と顔を合わせる機会を増やすことができます。吹き抜け空間に掲示板や展示スペース、アクティブラーニングエリア、勉強スペース等を設けることで、生徒が自主的に選択ができる空間とします。



吹き抜け空間 1



吹き抜け空間 2

メディアセンター

校舎の中心に位置するメディアセンターは単なる図書機能のみではなく、少人数学習やグループ活動など、生徒たちの創造性を育む場としても利用できる空間として整備します。

1. 開かれたメディアセンター

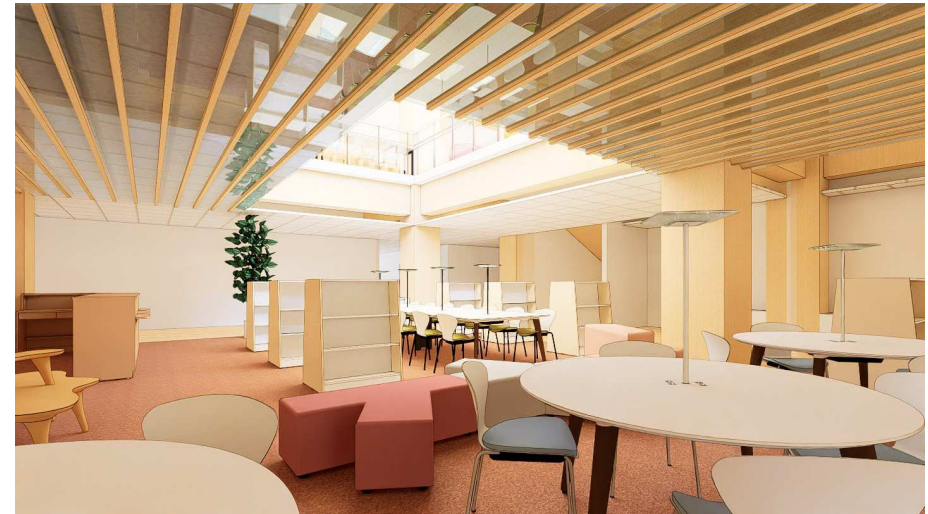
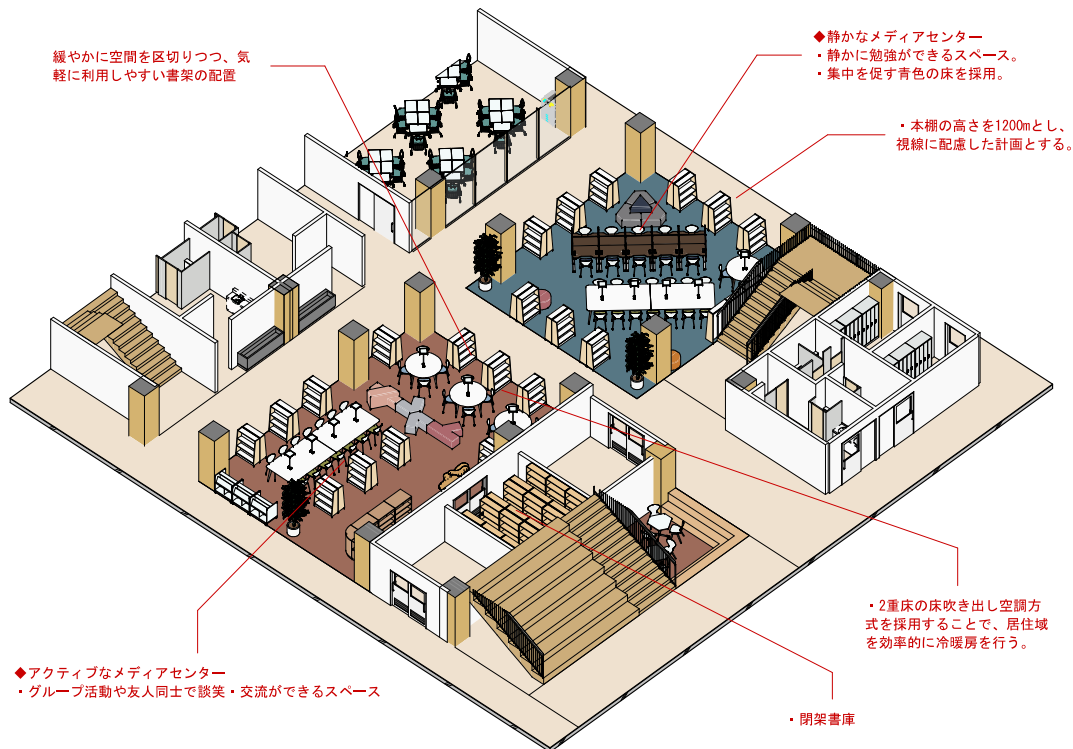
壁で閉じ切らない開かれた場とすることで気軽に立ち寄りやすくなり、利用率を向上させることができます。また、書架の高さを1,200mmとすることで、立った際に見通しがきき、座った際に視線を遮り、落ち着いた空間も両立した空間とします。

2. 創造性を育むメディアセンター

メディアセンターはICTルームや特別教室と隣接することで、生徒たちの学びの場が連続する空間として計画します。

2. 静かなメディアセンターとアクティブなメディアセンター

自主学习や個人での学びを重視した「静かなメディアセンター」と、グループ活動や友達と談笑可能な「アクティブなメディアセンター」を用意し、より柔軟に利用可能な空間として計画します。



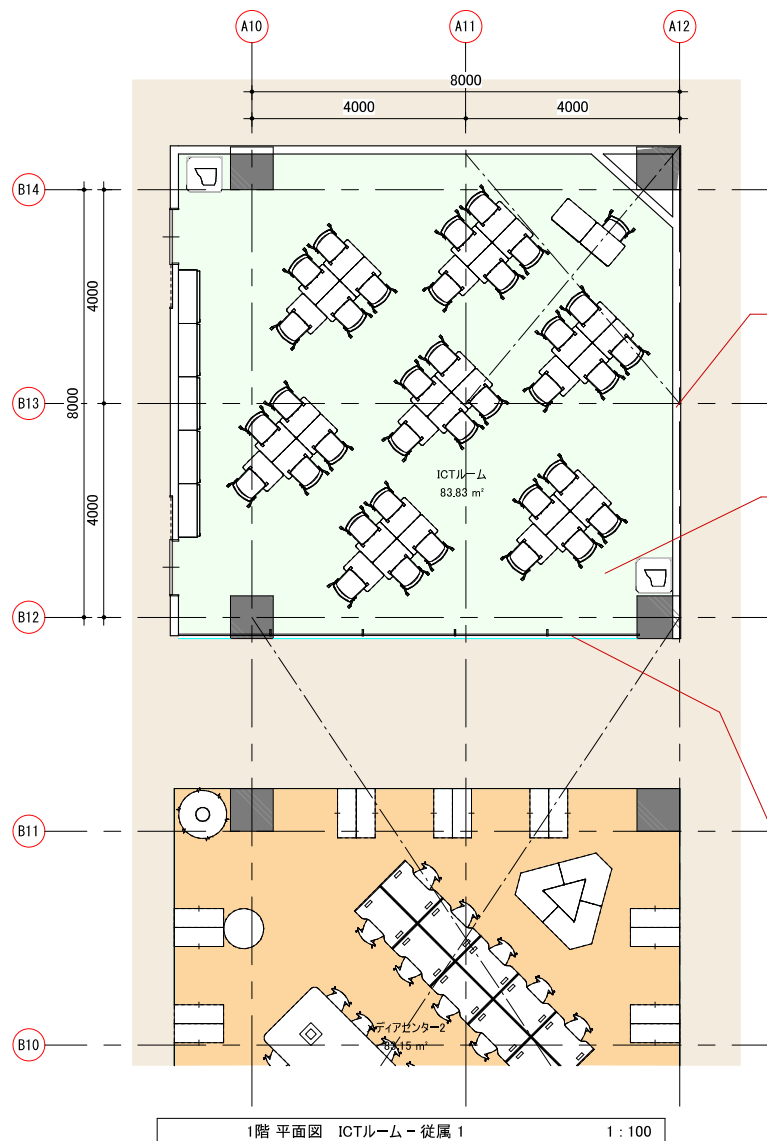
アクティブなメディアセンター



静かなメディアセンター

ICTルーム（未来の教室）

コンピュータを使って調べ学習やプレゼンテーションを行う、ICT分野に特化した未来の教室。
正面を45度回転させることでプロジェクター投影面積を最大限確保した計画。



・正面の角度を45度振ることで、壁面2面を活用でき、同時に多くの情報投影が可能な仕様とする。

・配線を自由に取らせるように配慮した仕様とする。

・メディアセンターとの一体感を生むガラスのカーテンウォール。
・開放感を演出する。

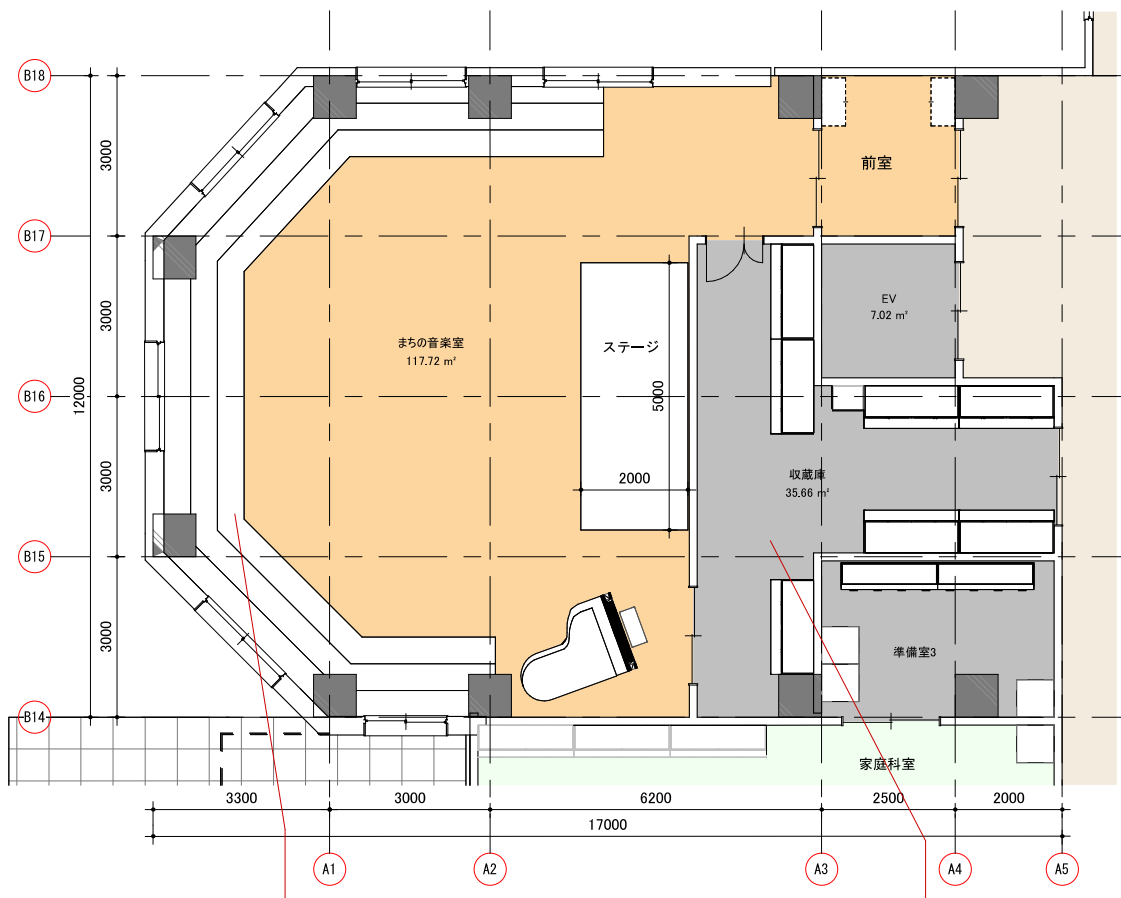


ICTルーム 内観イメージ



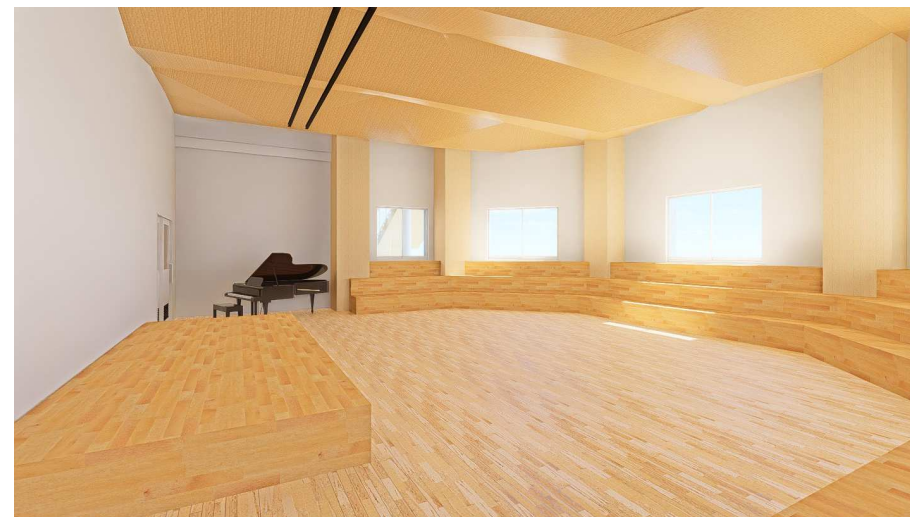
まちの音楽室

1. 臨場感や一体感を生み出す空間
 - ・ステージ発表利用時：
小コンサート利用時などの際、発表者がステージ、観客がひな壇を利用することで、より一体感を生み出す空間として利用可能な計画とします。
 - ・ひな壇発表利用時：
合唱発表会などの際、発表者がひな壇、観客がステージ側を利用することにより、より多くの発表者でも臨場感あふれる空間として計画します。
2. 音響に配慮した計画
天井、壁は吸音性を持った仕上げとし、音楽活動に最適な学習環境を整備します。

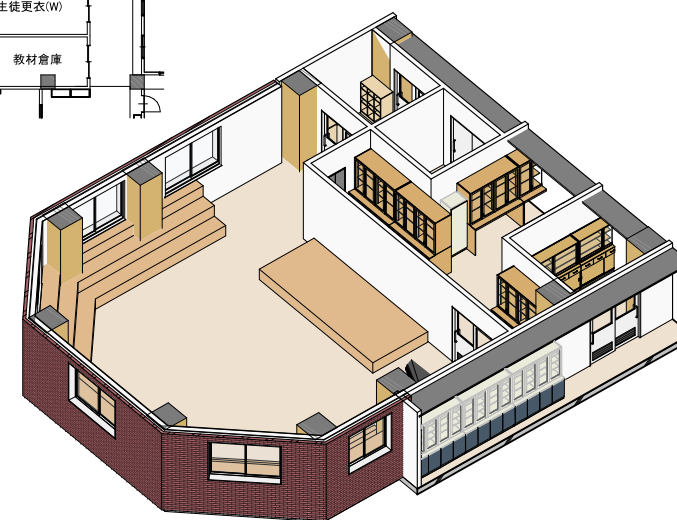
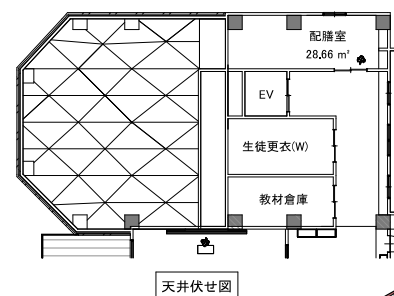


- ・臨場感を生み出す囲われたひな壇
- ・利用に応じて、
1. ひな壇：観客席、ステージ：発表 2. ひな壇：発表 2. ステージ：観客利用

- ・廊下からも直接出し入れ可能な楽器収納スペース。
- ・利用頻度が少ないものは廊下向かいの倉庫に収納。



まちの音楽室 内観イメージ



【アクリム】まちの音楽室 コピー 1

特別教室

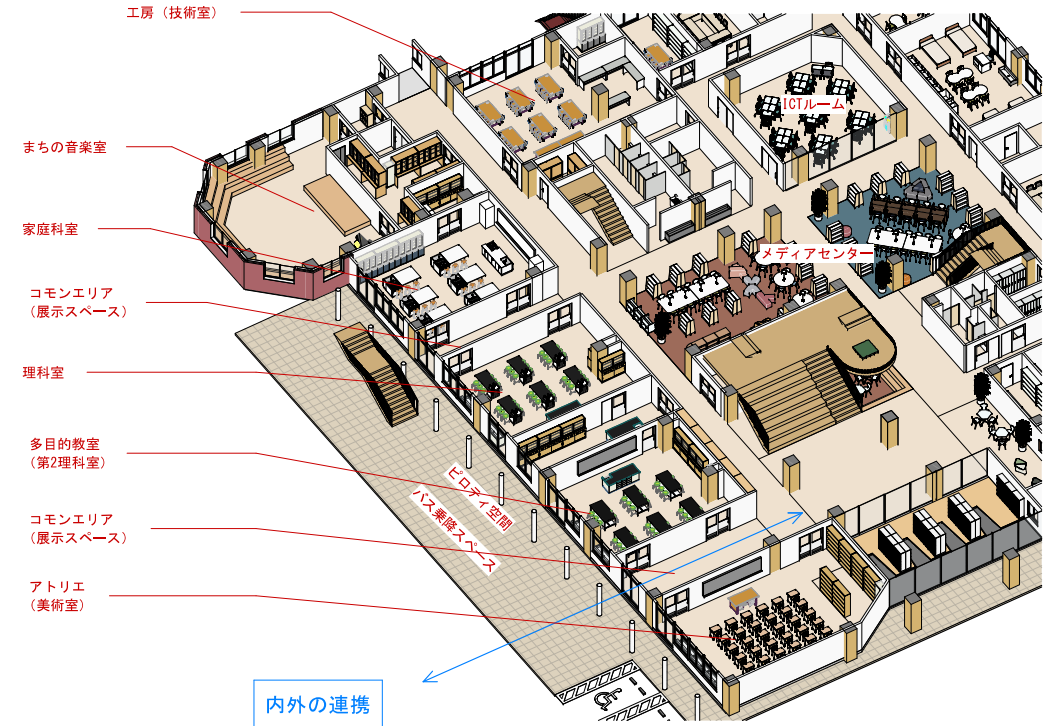
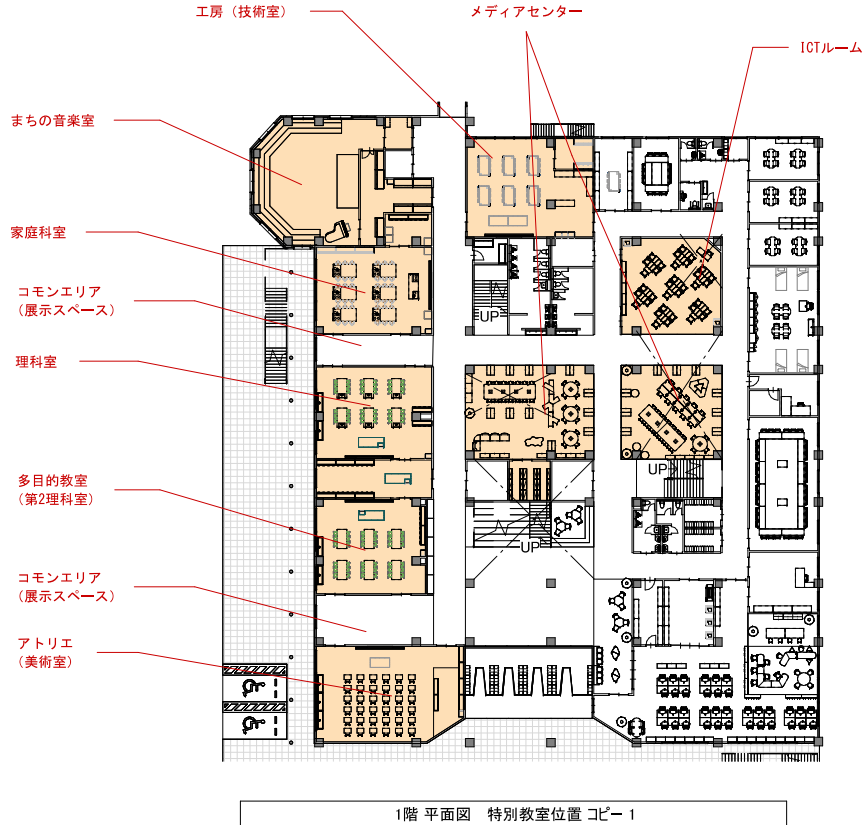
1. 教科の特徴がにじみ出すコモンエリア（展示スペース）
特別教室に挟まれた位置にコモンエリア（展示スペース）
を設け、各教科の展示物や作品を掲示したりなど、教科ご
との特徴がにじみ出る空間として計画します。
2. 内外の連携に配慮した位置に計画
 - ・ 南側駐車場に隣接させ、屋外との連携のしやすさに配慮
した計画とします。
 - ・ メディアセンター、エントランスホール、大階段に隣接
させ、他教室との連携の取りやすさに配慮した計画と
します。



理科室 内観イメージ



工房（技術室） 内観イメージ



特別教室 アクソメイメージ

ALA (アクティブラーニングエリア)

中学校のアクティブラーニングエリアは従来の教室とは異なり、生徒たちが主体的に学習に取り組むための空間として、机や椅子、パーテーションなどを自由に配置し、グループワークや少人数利用、プレゼンテーション利用など、様々な学習活動に対応できる空間として整備します。

アクティブラーニングエリアで重要視する3つのカテゴリーについて

1. 主体的な学び
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
2. 対話的な学び
生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先人の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
3. 深い学び
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

※ (文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」参照)



アクティブラーニングエリア 内観イメージ

